

みやこんじょ



No.44

発行日 2016年8月1日

発行 独立行政法人国立病院機構
都城医療センター
宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL 0986-23-4111

基本
理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心して、信頼できる病院をめざします

院長就任挨拶

院長 冷牟田 浩司

皆さま、はじめにご挨拶申し上げます。本年7月1日に独立行政法人国立病院機構都城医療センターに院長として赴任しました冷牟田浩司でございます。

まず都城市と都城医療センターのため粉骨砕身、努めてまいりたいと決意しております。くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

都城医療センターへの赴任が決まりました時に即座に思い出しましたことがあります。私は鹿児島での高校時代にラグビー部に所属しておりましたが、都城市には何度か遠征試合で訪問させていただきました。当時のわが母校は弱小チームで都城市某高校に常に惨敗していたのですが、いつも試合終了後にいただいた牛乳が実に濃厚で美味であったことが鮮明に記憶に残っています。町の皆さんもわが子のように優しく接していただいたことははっきり覚えております。縁は奇なり、再びお世話になることなど夢にも想像しませんでした。この度、再び都城市にお世話になること、大変光栄にうれしく思っております。

私は福岡県の久留米大学を卒業後、17年間、学内で診療・教育・研究に従事しておりましたが、平成6年、福岡市に新設された国立病院九州医療センターに異動し、その後22年間、循環器内科医として救急疾患を中心に診療に従事いたしました。

赴任に当たり、都城市と都城医療センターについて勉強させていただきました。都城医療センターは100年を超える歴史を有し、長きにわたって県西南地域の地域医療の中核的な役割を果たしてきたこと、幸いにも地域の皆様から厚い信頼をいただいていることが十分に理解できました。当院の基本理念は「高度で良質な医療を提供し、病む人が安心して、信頼できる病院をめざします」であり、引き続き、ご期待に沿って地域に貢献できる医療を提供し続けるように職員一同の先頭に立って高度かつ安全な医療の実践に努めてまいりたいと思っております。

幸いなことに、老朽化著しかった病院施設は平成20年に5階建て新病棟が完成、引き続き放射線治療棟、手術棟、薬剤部の改築、さらに昨年10月には外来診療棟も竣工しました。一連の病院全体の新築改装がすべて終了したことになり、清潔で効率的な医療を提供できるインフラ環境が整いました。

そのインフラに恥じない医療を実践するために「魂」を入れることが私の任務と思っています。いかに医療の質をより一層高め、地域の皆様に「この病院で診てもらって本

当によかった」と振り返っていただけに誠実に実践してゆくように努めてまいります。

当院は高度急性期医療を担う307床の地域での基幹施設の一つです。われわれは地域がん診療連携拠点病院の指定を受けており、5大がん(肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝臓がん)、血液がん、婦人科がん、泌尿器がん、頭頸部がんなど様々ながん患者の皆様を地域の中心的施設としてお世話してまいります。

さらに地域周産期二次中核病院、地域周産期母子医療センター、地域中核小児科センターとして、母体搬送から新生児集中治療にいたるまで県西地区および鹿児島県大隅地区の高度周産期医療を一手に引き受けており、小児疾患でも地域の小児二次医療機関として県内4つの地域小児科センターの一つとして役割を果たします。

また、地域医療支援病院として救急告示病院、開放型病院として地域医療の第一線のかかりつけ医の皆様と連携しながら高度な総合急性期医療を行ってまいります。

平成23年から歯科・口腔外科センターを開設し、口腔外科領域の専門的診療も地域の歯科医の先生方と協力してやっております。平成25年からは循環器科を開設し専門医による循環器診療を始めています。教育面においても歴史と伝統ある看護学校での質の高い優秀な看護師の輩出も引き続いてやっております。当院の職員の自己研鑽のみならず、地域の医療従事者の皆様に対する生涯研修や医療とはどんな仕事か少しでも知ってもらえればと小学生・中学生医療体験ツアー(メデイカルキッズ)も引き続き行ってまいります。これらの活動を通じて都城医療センターは地域医療の中心となる責務を果たしたいという思いを病院の院是として今後も掲げてゆきたいと思っています。

昨年、病院名を都城病院から都城医療センターへ改名しました。激動の地域医療情勢の時期、私たちが何をすべきか、職員一同とともに前向きで元気に考え、行動し続けるような病院運営を進めてゆきたいと思っています。

今後ともよろしくご指導ご鞭撻を切にお願いして、赴任の挨拶とさせていただきます。くれぐれもよろしくお願い申し上げます。



外科の紹介

当院外科では、消化器外科を中心に幅広い領域の手術を担当しています。年間手術件数は400～500件であり、日本外科学会専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設および日本乳癌学会専門医制度関連施設に認定されています。当院は地域がん診療連携拠点病院であり、過不足なく安全な治療を行うよう努めています。

個々の症例の治療方針については、毎週カンファレンスで手術適応、術式、治療内容を検討しています。病期・病状に合わせてエビデンスに基づき、様々な治療オプションの中から根治性と安全性と術後QOLのバランスを考慮し、最も適した個別化治療の提供を心がけています。疾患の程度に応じて縮小手術などにより機能温存を図ったり、あるいは進行した癌に対しては血管合併切除など拡大手術を行って根治性を高めるようにしています。

特に腹腔鏡手術を積極的に導入し、小さな傷、少ない出血量で体に優しく、術後の良好なQOLと早期退院を目指しています。多くの手術が鏡視下に行われるようになり、食道・胃・結腸・直腸・肝・胆・膵・脾・ヘルニア・救急疾患などにおいて、保険収載されている範囲内の術式を行っています。

手術のみならず、抗がん剤や分子標的薬などと外科手術を組み合わせる集学的治療を行っています。発見時に切除困難と診断されても、化学療法によって根治手術が可能となる場合もあり、予後の向上を目指して取り組んでいます。

また、消化管穿孔、腹部外傷、虫垂炎など救急疾患には24時間365日対応しています。

当院外科は本年4月から新メンバーで治療に当たっています。伝統を大切にする一方で、すでに新たな治療法を種々取り入れています。先生方に安心してお任せしていただけるよう、安全で合併症を起こさない治療を外科チーム一丸となって実践しています。

なお、外科的治療か内科的治療か判断が難しいなどの場合も多々あるかと思えます。当科が窓口として調整いたします。ご遠慮なくご紹介ください。



外科部長
沖野 哲也



<診療疾患>

消化器がん（食道、胃、結腸、直腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓など）

甲状腺がん、乳がん

良性疾患（食道裂孔ヘルニア、アカラシア、胆石・総胆管結石症、脾疾患、肛門疾患、各種ヘルニア、下肢静脈瘤など）

内科の紹介

当院内科は血液疾患と肝臓疾患を中心とした診療を行っています。

血液疾患については、移植医療以外の診療を行っています。

骨髄異形成症候群、急性白血病や慢性白血病や多発性骨髄腫、悪性リンパ腫、成人T細胞性白血病などの血液腫瘍の他、特発性血小板減少性紫斑病や自己免疫性溶血性貧血、再生不良性貧血といった良性疾患の診療を行っています。

悪性の血液疾患については、化学療法薬や分子標的治療薬の進歩により著しい治療成績の向上がありますが、まだまだ完治が困難な疾患もあるため、外来治療を含めた根気強い治療を目標に診療を行っています。

放射線治療の進歩と充実により、当院放射線科との連携を行いながら治療を行っています。

肝臓疾患については、B型やC型肝炎といったウイルス性肝炎や自己免疫性肝炎、肝硬変、肝臓がんの診療を行っています。

最近では脂肪肝、脂肪性肝炎やこれらに関連した肝硬変及び肝臓がんの患者さんが増加しており、有効な治療法については発展途上の状態であることから、背景となる糖尿病や高血圧、脂質異常症などの生活習慣病の治療が重要です。このため当院以外の医療施設の協力をいただきながら診療を行っています。

ウイルス性肝炎については、これまでのインターフェロン注射を中心とした治療法に加えて、B型肝炎にたいするエンテカビルやテノホビル、C型肝炎に対するリバビリン、テラプレビル、ダクラタスビル、アスプレナビルやパニプレビルなどの内服薬の使用により、ウイルス消失を含む治療成績の向上が認められています。

肝臓専門医によるきめ細かな診療を行っています。

肝臓がんについてはエタノール注入療法やラジオ波焼灼療法、動注化学療法などの集学的治療の進歩があり、当院でも精力的にこれらの診療を行っています。

2015年5月より内科とは独立して消化器病センターを設置することが可能となり、現在2人体制

で消化器・肝臓病の専門医療を行っており、当地区のさらなる診療レベルの向上が期待されます。

血液疾患及び肝臓疾患については、新規治療薬や治療法の進歩が著しく、最適な治療法を行うため日々研鑽を積みながら診療を行うよう心掛けています。

当院の総合病院としての利点を活かし、他科との連携を図りながら集学的治療を含む診療を行う方針です。

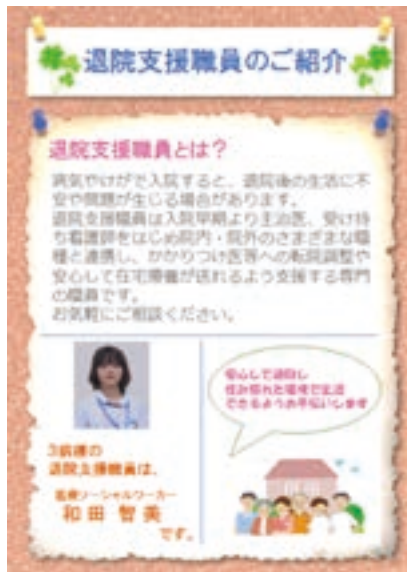
HIV診療について当院は拠点病院となっていますが、未だスタッフは不足しており現在十分な診療は困難となっています。県内の感染症科専門医と連携を行い、診療を継続する予定です。



内科部長
前田 宏一



退院支援職員が配置されました。



(病棟掲示板で担当者を紹介)

の退院支援は今後も様々な患者・家族のニーズに対応し、患者・家族から満足を得られ、安心・安全に療養先に移行できるよう病棟看護師や他職種と連携を図り支援していきたいと思います。

(地域医療連携部副部長 鳥丸 章子)

今年度の診療報酬改定による退院支援加算1の取得に向けて、5月から2名の看護師が地域医療連携室に配置されました。担当病棟の退院支援職員として、2名の看護師と1名のMSWが活動を開始しました。従来の退院支援は病棟看護師による入院時の退院支援スクリーニングからの依頼にもとづき、地域医療連携室が介入し開始していました。退院支援職員の配置により退院支援スクリーニングの徹底と、入院7日以内の患者・家族との面談や退院支援に関するカンファレンスが定期化し、病棟看護師を中心にして入院早期から他職種を交えた情報交換ができるようになりました。また、退院支援を必要としている患者の把握にもれがなくなり、対外的にも療養先での支援担当者との情報交換の機会が増えています。その結果、退院支援職員の配置された5月は退院支援に関する相談と退院支援算定件数が、昨年度の同月に比較し2倍以上と増加に繋がっています。17診療科を抱える当院の退院支援は対象の患者・家族の背景やニーズも多様化しています。地域医療連携部



梯真菜美看護師 ♥ 宮崎美津子看護師

「新外来診療管理棟・サービス棟・剖検棟の完成について」



平成26年8月からスタートした外来診療管理棟の新築整備工事が、2年間という年月を経ていよいよ本年7月サービス棟・剖検棟・外来駐車場など外構工事を終え完成いたします。

入院されている皆さま・面会の皆さまに気軽に利用いただけるようにサービス棟には売店・レストラン・ラウンジ等をゆったりとしたスペースで配置しました。ラウンジには電子カルテの更新と併せ、外来での診察や検査の待ち時間を表示するディスプレイを設置しました。少しでもその待ち時間を快適に過ごすことが出来るように計画しています。

また、これまで駐車場がせまく遠いため、お車でお越しの皆さまには長きにわたってご迷惑をおかけしましたが、雨の日でも濡れずに車の乗り降りが可能なように正面玄関に大ひさしを構え、屋根付きの歩道も完備し、外来棟・病棟に近い場所に駐車台数260台を超える広い外来駐車スペースを整備いたしました。

剖検棟・霊安棟についてはバイオハザード対策を施した最新の解剖関連設備を導入し、院内で病理解剖が行える体制を完備いたしました。

全体的な工事工程としては、わずかに外来駐車場の一部に位置する旧棟部分を解体し駐車場として整備する工事等が残っていますが、大がかりな整備工事はそれをもって終了となります。

今後とも地域の皆さまが安心して、信頼できる医療を提供することを念頭に快適な療養環境作りを目指して努力して参ります。

(企画課長 村尾浩一)

都城医療センターにおける緩和ケア

当院は平成17年に地域がん診療連携拠点病院に指定され、宮崎県内県西地区を担当しています。地域がん診療連携拠点病院の指定要件に沿って、早期からの専門的緩和ケアを実践するため、様々な取り組みを行っております。本日は都城医療センターの取り組みを紹介させていただきます。

まず、地域の先生方からの紹介を受ける窓口として、緩和ケア外来、がんサポート外来を開設しております。緩和ケア外来は聖路加国際病院の林章敏医師が毎月第4金曜(医師の都合により変更もあり)に診療しております。林医師は緩和ケア専門医として全国で活躍されていますが、都城出身で郷里のためにと診療していただいております。入院中の患者の皆様も診察して頂き、様々な症状緩和の方法や精神的苦痛の緩和など、実践により緩和ケアチームにもご指導いただき、たくさんの学びを得ています。がんサポート外来では放射線科新村耕平医師が診察しており、がんによる様々な症状の緩和を行っています。続発性リンパ浮腫、整形外科術後のリンパ浮腫の診断を行い、リンパ浮腫外来にて専門の看護師がマッサージを行います(自由診療になります)。二つの外来は予約診療とさせていただきますので、地域医療連携室か私の方にご連絡下さい。

入院の体制としては苦痛緩和目的やレスパイト入院として、がんサポート外来で診療後に入院していただいております。長期の入院や家族の付き添いなどご希望の方は緩和ケア病床(畳2畳の別室、トイレ、風呂、キッチン、付き添い用寝具付き)も用意しております。

緩和ケアチームは、毎週月曜にチームカンファレンスと病棟ラウンドを行い、専門的知識を活用して患者の皆様苦痛軽減のため活動しています。チームは医師、認定看護師(がん性疼痛看護、緩和ケア)、管理栄養士、薬剤師、MSW、がん専門相談員、理学療法士、作業療法士、心理カウンセラーなど多職種で構成されており、病棟ラウンド時は主治医や看護師を交えて対応を検討し、方針を確認しながら治療やケア内容の提案を行っています。



緩和ケアに関する研修も行っており、毎年、医師向けの緩和ケア研修会も開催しております。林医師を始め宮崎県内の緩和ケアに関わる医師が講師となり、緩和ケアの知識、技術の研修と共に、地域で顔の見える関係作りにもお役に立てるのではないかと思います。

他にもがんに関する患者、ご家族、地域の皆様や医療者の相談を受ける窓口として、相談支援センターを開設しており、がん専門相談員が常駐し、対応しております。

都城医療センターは外来棟、サービス棟と新築しハード面の整備を行い、より患者の皆様が利用しやすい環境が整いました。今後も県西地区の緩和ケアの一助になれるように、できる限りの対応を検討してまいりますので、ご紹介や医療者からのコンサルトなどどうぞご連絡下さい。

(緩和ケア専従看護師 がん性疼痛看護認定看護師 児玉みゆき)

看護の日

私たちは、5月27日の看護の日に午前中には、震災をテーマに各学年で話し合い、全学年でその内容を共有し、午後は、日ごろ実習や講義等でお世話になっている患者さんや看護師さんへの感謝を込めてボランティア活動を行いました。

午前中のディスカッションでは、今回地震の被害にあった熊本、大分の現状、被害者の思いを感じ、私たちが実際災害にあったときにどのような看護ができるかということについて意見交換を行いました。同じ九州内で起こった身近な出来事として、皆が震災について深く関心を寄せており、多くの意見が交わされました。また、同じ国立病院機構の熊本医療センターの看護学生へ、同じ看護をめざすものとして、ささやかながら励ましの言葉を旗に寄せ書きして送らせていただきました。

午後の掃除ボランティアでは、各病棟の車椅子、点滴スタンドの整備、環境整備を全学年で取り組みました。患者さまが日ごろから使われる車椅子や点滴スタンドをより安全かつ快適に使ってもらえるよう、細かな部分にも細心の注意を払い、一生懸命取り組みました。

また、患者さんへの贈り物としてティッシュカバーを作成しました。ティッシュは入院生活の中で欠かせないものです。そのティッシュを華やかにし、患者さんに少しでも元気になってほしいという思いから、看護学生みんなで思いを込めて一つ一つ丁寧に作成し、日ごろの感謝の気持ちとともにお渡ししました。患者さまが大変喜んでくださり、私たちもとてもうれしく思いました。



この看護の日では、日ごろの感謝の気持ちをお伝えしたいと思って活動をしましたが、患者さんや看護師さんからありがとうという言葉をいただいたことで、一層、私たちは実習や日々の講義・演習で学習を深めていきたいという気持ちがより強くなりました。今回の学びを活かしていきたいと思います。

(69回生 富高智佳子)

オープンキャンパス

2016年オープンキャンパスを開催予定です。

第2回

平成28年8月28日(日)

第3回

平成28年10月8日(土)

※第3回は、学校祭の企画として開催いたします。

詳しくは、インターネット

<http://www.mkango.ac.jp> をご覧ください

初めての見学実習を終えて

今回の基礎看護学実習では、患者さんが入院生活を送っている環境や看護活動の実際を知るために見学実習に行きました。入学後二ヶ月経った時期であり、初めて病院・病棟内の雰囲気に触れ、緊張と期待で胸がいっぱいでした。

私が今回の実習で一番学んだことは、患者さんと看護師の信頼関係の大切さでした。ある患者さんの朝の状態観察に行かれた看護師さんは、とても自然に患者さんとコミュニケーションを図って体調の確認をされていました。私は、排泄状況に関する事などは患者さんにとって恥ずかしいことであり、どのように聴いていくとよいのだろうかと考えていました。しかし、実際の場面では、患者さんが自ら体調や排泄状況を伝えられていました。その場面から、患者さんと看護師の信頼関係が成り立っているからこそそのやりとりなのだと思います。入院生活を送る患者さんにとって看護師は最も多く関わる存在であると思います。いつでも相談しやすい人が近くにいることで、少しでも安心できる入院生活に繋がるということを実感しました。

実際に臨床の現場で患者さんの入院生活環境や看護活動(患者さんと接する場面)を見学できたことは、今後の看護を学んでいく上で貴重な経験となりました。そして、自分の目標である「信頼される看護師になる」ために、一つ一つの知識や技術を身につけられるように頑張りたいと思います。

(70回生 久木山 詩織)

連携医療機関のご紹介

富中小児科医院



院長
はたなか みちき
富中 道己 先生



所在地	宮崎県北諸県郡三股町新馬場24-1
TEL・FAX	TEL 0986-52-6000・Fax 0986-52-6035
診療科目	小児科
診療時間	平日8:30～18:00、土曜8:30～18:00
休診日	日曜・祝日休診
備考	日本小児科学会認定 小児科専門医 日本血液学会認定 血液専門医

先代の父が昭和55年、富中医院で内科を開業し多方面で大変お世話になりました。

わたくしは福岡大学病院時代、小児科領域の白血病や悪性腫瘍を専門とし診療しておりました、臨床研修終了後の若かりし時代に、都城市郡医師会病院 小児科で延べ4年間、一般小児科の経験を積み、平成22年4月、院長に就任し富中小児科医院で小児科を開院いたしました。

現在、小児科ですので子ども達のみになりますが、貴院への紹介では小児科をはじめ、泌尿器科・外科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・整形外科・各科全般に、お世話になっており、ありがとうございます。

地域に密着した二次病院があることで紹介した症例が、元気に笑顔で当院に再診された時が、とてもうれしく安心して日々の診療ができて助かっております。

当院の特色は、院内に病児院を併設しており、①



罹患児の病状悪化防止、②流行性疾患の蔓延防止、③保護者の就労援助、④育児不安・家庭環境の相談を目的とし、年間



600～800名ほどの利用があり、小児科医・小児看護士・保育士が常駐しており、良質な病児保育を提供しております。

わたくしも小児科医の目線で、医療機関のつながりを大事にし、地域医療に貢献できる小児医療の充実と病児院の発展に邁進していく所存であります。

今後も、地域医療支援病院である貴院の各診療

科にはお世話になります。新生児医療始め、一般小児科の方で、よりいっそうの地域連携をよろしくお願い致します。



(富中子ども病児院)

外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】 受付時間 8:30 ~ 11:00

【平成 28 年 7 月 5 日】

Table with columns for medical department (e.g., Internal Medicine, Pediatrics, Surgery) and days of the week (Monday to Friday). It lists the attending physician for each day and time slot.

【その他の特殊診療】

Table listing special services such as Endoscopy Center, Gastroscopy, and Bone Density Measurement, along with their respective days and times.

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いいたします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。
※2 医療機関の方へ：血液内科の初診については、事前に診療FAX連絡票と共に、最新の血液データを送ってください。
※3 皮膚科の診察時間は、火曜、木曜、金曜の9時30分～13時となっております。
※4 がんサポート外来、緩和ケア外来については、事前にご相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いいたします。
※5 セカンドオピニオンの受診についても、予約制となっております。がん相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いいたします。
※6 ペインクリニックは歯科口腔外科を受診された患者様が対象となります。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893



独立行政法人 国立病院機構

都城医療センター (地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864
E-mail/syomu-2@hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp
編集発行：広報委員会